

TOPICS

ひょうご・こども環境会議に参加しました。

学び 環境

神戸市で開催された主要国（G8）環境大臣会合の関連行事「ひょうご・こども環境会議」が平成20年5月17日・18日に兵庫県主催にて開催され、西宮市からも春風エココミュニティ会議・学文地区子ども会・浜脇小学校・浜脇ガールスカウト・香櫛園小学校などの子どもたちが参加しました。初日は西宮市甲山農地で田植えなどの農業体験を実施し、2日目は、兵庫県公館で子どもたちが未来に残したい生き物や植物の絵と、環境問題への個々のメッセージなどを書き記した「エコフラッグ」作りに取り組みました。



ひょうご・こどもエコメッセージ

「社家郷山・企業の森プロジェクト」の発足

参画 生物

森林は、水の育み、土砂災害の防止、二酸化炭素吸収、憩いの場など私たちの生活に深く関わっていますが、近年、適切な手入れがなされず、荒廃していくことが危惧されています。

こうした状況を改善するため、社会貢献活動（CSR）の一環として、生活協同組合コープこうべが組合員や資金を提供して「企業の森づくり事業」に参画し、西宮市・兵庫県・生活協同組合コープこうべ・財団法人兵庫県緑化推進協会が、平成20年5月に4者協定を結びました。生活協同組合コープこうべのマイバッグ運動によるレジ袋代金が資金となり、今後10年間、社家郷山を舞台に森林保全や環境学習活動を行っていきます。



企業の森づくり 協定書

『エンジェルス・イヤリング』の新品種が誕生しました。

生物

西宮市植物生産研究センター（北山緑化植物園内）では、西宮市独自の花でまちを飾るため、「西宮市オリジナル植物」を開発しています。イヤリングのような花の形が特徴的なフクシアを改良して耐暑性を高めた『エンジェルス・イヤリング』には、花色などが異なる15品種があり、平成20年の春には、新たに、白色のすっきりした花を沢山つける「ホワイトフェアリータイプ」が加わりました。西宮市オリジナル植物は、市内の公園花壇・まちかどを飾るとともに、北山緑化植物園内で販売されています。



エンジェルス・イヤリング

津門小学校に太陽光発電パネルを設置しました。

学び 環境

津門小学校の改築工事にあわせ、校舎屋上に太陽光パネル（発電容量3kW）を設置しました。校舎で使用する電気の一部を太陽光発電でまかなうことで、地球温暖化対策となるだけでなく、環境学習の教材として活用し、子どもたちの環境への意識を高めることも期待されています。西宮市ではこれまでも、甲山自然学習館や一部の保育所などに太陽光発電設備を導入してきました。今後も、小学校などの改築にあわせて太陽光発電設備の設置を進めるなど、環境学習都市にのしのみやの特色を活かした地球温暖化対策を推進していきます。



太陽光発電パネルと標示板（津門小学校）

歩きタバコ及び自転車運転中の喫煙を禁止しました。

快速

道路や公園・広場などでの喫煙は、吸殻のポイ捨てによりまちの美化を損ねるだけでなく、やけどの危険などもあります。このため西宮市では平成20年6月より「快適な市民生活の確保に関する条例」を改正し、市内公共の場所での歩行中や自転車運転中の喫煙を禁止しました。平成20年10月には阪神西宮駅北側から市役所にかけてのエリアが喫煙禁止区域に決定され、平成21年度より喫煙禁止区域内の違反者から過料を徴収する予定です。市では今後、喫煙者のより一層のマナーの向上を図り、たばこを吸う人と吸わない人が共に快適に過ごせるまちづくりを進めています。



歩きタバコは禁止です！！（登発チラン）

学びの ポイント

多くの自治体が「環境都市宣言」をしています。西宮市は「環境学習都市宣言」。「学習」の2文字にどんな思いが込められているのでしょうか。宣言文を読んで探ってみましょう。

西宮市環境学習都市宣言

いま、地球は危機に瀕しています。これまでの社会経済活動や私たち人間のくらしが、地球温暖化や砂漠化などの問題を引き起こし、自らの生存基盤でもある環境を脅かしています。

西宮市では、市民が主体となって、六甲山系の緑の山並み、武庫川・夙川などの美しい河川、大阪湾に残された貴重な甲子園浜・香櫛園浜をはじめとした豊かな自然を守るとともに、公害問題にも取り組むなど、良好な環境をもつ都市を目指してきました。また、阪神・淡路大震災の体験を通じて、自然の力の大きさとその中で生かされている私たちの存在を改めて学びました。

西宮の環境を、そして地球の未来を次世代に持続可能な状態で引き継いでいくためには、私たち一人ひとりが社会のありかたやくらしを見直さなければなりません。

環境学習とは、私たちのくらしが自然にどう支えられ、自然をどう利用してきたかを考え、環境に対する理解を深め、自然・歴史や文化・産業・伝統といった地域資源を活用しながら、地域や地球環境との望ましい関係を築いていくために学びあうことです。

私たちは、世代を超えて、家庭・地域・学校・職場などの様々な場所で、市民・事業者・行政の協働によって、人と人との新しい交流を生み出し、環境学習活動を支えるしくみをつくっていきます。

西宮に住み、学び、働くすべての人々が、文教住宅都市宣言（1963年）、平和非核都市宣言（1983年）の精神とあゆみを再認識し、環境学習を軸とした21世紀の持続可能なまちづくりを進めることをここに宣言します。

行動憲章

私たち西宮市民は、参画と協働の環境学習を通じて、21世紀の世界に誇ることのできる持続可能な都市を実現します。

1. 私たちは、自然のすばらしさを体験し、歴史、文化や産業と環境との関わりを学びあい、環境に配慮した行動を実践できる市民として育ちます。
2. 私たちは、市民・事業者・行政・各種団体・NPOなどとのパートナーシップの精神に基づいて、地域社会に根づいた環境活動を進めます。
3. 私たちは、くらしと社会を見直し、資源やエネルギーを大切にしながら循環型都市を築きます。
4. 私たちは、健康で文化的なくらしの中で、人と自然、人と人とが共生する、公正で平和な社会を実現します。
5. 私たちは、すべての生物が共存できる豊かな地球環境を次世代に引き継ぐため、環境学習を通じ、世界の様々な地域の人々とのネットワークづくりを行います。

市民・事業者・行政の協働で「行動憲章」に取り組んでいく決意を表すため、環境計画推進パートナーシップ会議委員の中から、川合真一郎委員長、津田泰男委員、添田晴雄委員、水島裕二委員、藤井厚夫委員の自筆（順不同）で行動憲章を書いていただきました。